

指導者（保護者）として大切にしたいこと（その16）

～「ミニバスケットボールの今昔 ④」～

2020年5月吉日

広島県バスケットボール協会U12部会

スーパーバイザー 大庭浩資

8 30秒ルール

今は24秒ルールが当たり前ですが、当時は、30秒ルールすらありませんでした。これは、ミニバスの指導者や審判が少なく、ミニバスのルールに30秒ルールを取り入れても、きちんと処理できないだろうとの考えからだと思います。

しかし、いざ導入された時にも、30秒の計時係は前述のようにとっても大変でしたが、ルールの的には大きな混乱はありませんでした。それは今でこそ継続のケースとリセットのケースを使い分けしますが、当時はすべてリセットだったからです。つまりファールがあってもボールがコートの外に出ても、すべて30秒に戻っていました。

分かりやすいと言えばそうですが、例えば28秒間必死に守っても、ボールカットしたボールがコート外にでると、次のスローインでまた30秒からやり直しというわけですから、ディフェンス側としては、本当に辛いものがありました。

またこれを上手に活用し、勝っている試合では、4Pの途中から時間稼ぎ？ をするチームもありました。ですから、試合の後半にはあまりシュートがないケースも度々でした。

その点、今の24秒ルールはシュートの場面がたくさんあり、スピード感あふれるバスケットボールの面白さにつながっていると思います。

9 タイムアウト、選手交代

今は、各ピリオドでタイムアウトを取ることができます。また4Pでは、自由に選手を交代することもできます。私が昨年度から、指導者としてベンチに入るようになり、何といってもこの2点が一番嬉しく思ったことです。

昔はタイムアウトを取れるのは4Pだけです。ですから、1Pや2P、3Pに試合を止めたり、流れを変えたりしようと思っても、声で指示を出しながら、ただただ6分間が過ぎるのを待つことしかできませんでした。試合の流れが良いときはいいのですが、悪いときは本当に辛い時間でした。「今、タイムアウトが取れば」と思ったことは度々でした。

それに比べて、今は、試合の勝ち負けはさておき、タイムアウトを取ることで試合を止め

で少しでも流れを変えたり、選手への指示をしっかりと伝えたりすることができます。これはコーチにとっても選手にとってもよいことです。

また選手交代も、昔は4 Pのタイムアウトを取った時だけでした。「今、試合はリードしている。まだ試合に出ていない選手を出してやりたい。でも逆転されたら・・・」こんな思いは、当時の指導者なら、誰でも経験されたことでしょう。

今でこそ、選手を交代させ、試合の状況が悪くなったら、また交代させることができます。しかし当時の選手交代は、それはそれは勇気のいることでした。ですからほとんどのタイムアウトが、試合終了間際のものでした。時間ぎりぎりまで待ち、「もう大丈夫だろう」と思ってタイムアウトを取り選手を交代させる。それでも選手交代により、試合の流れが変わり、逆転されるという試合を何度も見ました。結果論とは言いながら、やはりコーチとしては悔いの残る采配となったことはまちがいありません。

その点、今のシステムを有効活用することは、コーチとしても選手の力を最大限引き出せることにつながると思います。

10 セブンファール

今はピリオドごとに、チームファールが5つ目からは、相手にフリースローが与えられますね。

しかし当時は、1 Pと2 Pが前半、3 Pと4 Pが後半で、前半（または後半）にチームで7回ファールをすると、8回目からフリースローでした。

これだけを聞くと、今よりフリースローになるまでのチームファールの数が一つ少なかっただけと思われるでしょう。しかし実際は大きな違いがあります。

例えば現在のルールでは1 Pに4ファールしても2 Pには0にリセットされますよね。しかし当時は、1 Pに7ファールになると、1 Pにおいてそれ以後、ファールのたびにフリースローとなるばかりか、それが2 Pにも継続され、ファールをしたらすべて相手にフリースローが与えられました。これは本当にきびしいものでした。この2 Pに、相手がどんどん強気に攻めてくるのを何とか耐える6分間は、10分にも20分にも感じました。

またある意味、フリースローで勝敗が決まるという試合も多かったので、当時はフリースローの練習にしっかりと時間をかけていたように思います。

でも逆にいえば1 Pでファールを我慢すれば2 Pでは7つまで大丈夫なわけですから、それを活用して2 Pには厳しいディフェンスをするのも戦術の一つでした。